

「万葉集」と行田

万葉集は、7世紀後半〜8世紀後半ごろにかけて編まれた現存する日本最古の和歌集です。万葉集には、天皇、貴族から下級官人、防人などさまざまな身分の人が詠んだ歌が4千500首以上集められています。この中に、行田市に関係すると推測されている歌が4首あります。

①の歌は、高橋連虫麻呂の歌集から選ばれた歌で、虫麻呂自身の作ではないかと推測されています。高橋連虫麻呂は、歌集の歌を含めて「万葉集」に36首の歌が選ばれている8世紀前半ごろの歌人ですが、天平4年(732)に藤原宇合に歌を贈ったこと以外には、正確な経歴は不明です。宇合が養老3〜7年(719〜723)に常陸国守であったこと、万葉集収録の虫麻呂の歌の内、11首が常陸国関係であることから、虫麻呂は宇合の下僚として常陸国に下っていた微官と推測されています。

収録順に記すと、①巻9 1744 (武蔵の小埼の沼の鴨を見て作れる歌一首)「埼玉の小埼の沼の鴨そ翼きるおのが尾に降り置ける霜を掃ふとにあらし」②巻14 3380「埼玉の津に居る船の風をいたみ 綱は絶ゆとも言な絶えそね」③巻20 4423 埼玉郡上丁藤原部等母麻呂「足柄の御坂に立

して袖振らば 家なる妹はさやに見もかも」④巻20 4424 妻物部刀自売「色深く背なが衣は染めましを 御坂たばらばまさやかに見む」となります。



小埼の沼の歌が刻まれた石燈籠(前玉神社)

高橋連虫麻呂は、常陸の他、上総、下総、武蔵、駿河など東国にゆかりのある歌が数多く万葉集に収録されており、常陸国に下っていたときに武蔵国の小埼沼を訪れて、①の歌を詠んだのではないかと推測されています。

(文化財保護課 中島洋一)

このコーナーでは、行田の歴史や名所、名物などを行田ゼリーフライキャラクターのこぜにちゃんが分かりやすく紹介します。



こぜにちゃんが行く!

きっずプラザ あおい

みんな、明けましておめでとう!

今年最初に紹介するのは、昨年4月にオープンした「きっずプラザ あおい」だよ。この施設は、水城公園内にある公園併設型の地域子育て支援センターで、ふわふわドームや滑り台などの遊具があるんだ。さらに、館内にはプレイルームもあって、雨の日でも遊べるから、子供たちの遊び場として最適だね。また、お父さんやお母さんの交流の場にもなる施設だから、家族や友達を誘って、どんどん遊びに来てほしいね。

今月の表紙

11月16日、総合公園周辺で全日本学生ロードレースカップシリーズ「第11戦浮城のまち行田ラウンド」および「第9回東京六大学対抗ロード(クリテリウム)大会」が開催されました。戦いの舞台は、1周2キロメートルの周回コース。選手らはチームの勝利や自己ベストを目指して、猛スピードでコースを駆け抜けていました。

- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をCD-Rに録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



市報ぎょうだは再生紙を使用しています